

市長から市民のみなさんへ

77

山形県市長 白井 博文

まちの " 住みよさ " について

早朝、市内を車で回ってみると、あちらこちらでごみ袋片手に、道路脇のごみを拾って歩く人を目にします。やがて登校時間が近づくと交通指導を兼ねて、児童の安全を見守る人の姿も見られます。比較的高齢の方々の善意に心温まる想いがします。

60歳代はもちろんのこと、70、80歳代になってもまだまだお元気で、時間に余裕のある方が各方面でボランティアで活躍されています。一方で国を含めて行政は、高齢化社会に対応できる施策を打ち出せない状況にあり、耕作放棄地が目立つようになった農村、若い人が家を離れて、高齢者のみが暮らす"限界集落"の課題などが本市においてもクローズアップされてきています。

企業情報誌「四季報」を発刊している東洋経済新報社が「都市データパック 2008年版」という本の中で、人口あたりの介護老人施設、都市公園面積、財政力指数や持ち家世帯比率などの指標をもとに、全国784都市の"住みよさ"の順位付けを行いました。本市は上位3分の1の境界あたりの245位という結果でしたが、財政難という大きな課題を抱えている点からすると思わぬ高評価にうれしさ半分、驚き半分といったところでしょうか。

財政が回復してくればやがては100位以内に入ることも可能かもしれないと期待は膨らみますが、"住みよさ"と一言で言ったところで、市民一人ひとりで受け止め方が違ってきます。そのような数字にはあらわれない、先述の耕作放棄地や限界集落の問題など、"暮らし"に直結した課題についても常に意識

対話の日

【19:00からはじまります。】



8月28日(木)七田町コミュニケーションセンター

しながら、行政全般を進めていかなければいけないことは当然のことですが、ボランティアの方々に代表される「自分たちの住む地域は自分たちで盛り上げていこう」という前向きな気持ちが"住みよさ"を支える原動力として大きくなりつつある状況は素直にうれしく思います。

"住みよさランキング"については、このコラムで後日、触れたいと考えています。

少し早いですが、最後に9月の敬老の日にちなんだお話をさせていただきます。

昨年、敬老祝金の廃止に伴ってはじめて"敬老祝事業"を今年も引き続き行い、市内の各事業所で割引などの特典が受けられるよう準備をすすめています。幼稚園・保育園児の絵に私からの直筆のメッセージを添えてお配りする、"敬老祝い"カードについてもご好評いただきましたので、今年も対象者にお届けする予定です。昨年は500枚を一気に書き上げ、腕が痛くなってしまった教訓をふまえ、今年は、今から少しづつ書き始めています。後期高齢者医療制度もはじまり、ご高齢の方々へ"生きがい"を感じてもらえるような行政のあり方について、想いをはせながら一枚一枚、気持ちをこめて書きつづっているところです。まだまだ暑い日が続きます。どうかお体ご自愛ください。



ご利用ください
声の広報・点字の広報

目が不自由な方のために、音声テープや点字の広報の貸出しを行っています。ご希望の方はお知らせください。☎広報広聴課 (☎ 82-1133 FAX 83-9336)